

課題番号	7-2-4	分野名	特用林産	予算区分	国庫
研究課題名	自然活用型特用林産物の生産技術の開発2 (自然栽培きのこの多品目安定生産技術に関する研究)【ムラサキシメジ】				
担当者名	金田 佳隆 大橋 洋二		研究期間	平成 19~22 年度	

目的

ムラサキシメジの野外栽培は、これまでの試験で「落ち葉マウンド法」を12月の冬季と8月の夏季に伏せ込んで栽培試験を行った。12月の伏せ込みでは翌年の10月下旬から11月上旬にかけて収穫が得られたものの、8月伏せ込みでは菌床から発菌せずに子実体の収穫は得られなかった。管理方法に問題があったとも考えられるが、いずれにしても盛夏の伏せ込みは適さないと考えられるため、今年度については秋季の9月に伏せ込みを行い栽培試験を行った。

方法

培地は剪定枝葉堆肥：フスマを重量比10：3で配合し、含水率を65%に調整してフィルター付きPP袋に1.0kg充填した。供試菌株は宮城県の保有菌株「HS-1」を使用し、培養期間は65日間で、「落ち

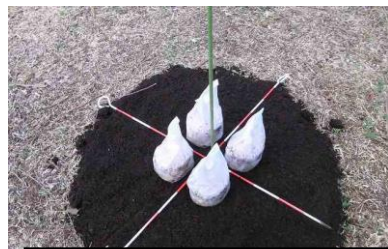


写真-1 ムラサキシメジ伏込状況 (落ち葉マウンド法)



写真-2 伏込状況 (埋設)

葉マウンド法」による伏せ込みは平成21年9月25日に行った。堆肥は直径1.0mの円状に3cm厚で敷き詰め、その上に菌床を4個もしくは2個を並べ(写真-1)、直径2.0mの円状に落ち葉を敷き詰めた。伏せ込み場所はコナラ主体の広葉樹林下及びヒノキ林下の2箇所で行い、落ち葉は主にコナラ主体のものを使用した。併せて広葉樹林下において平成21年9月28日に菌床を5個ずつ、それぞれ黒土及び赤玉土で埋込んで観察を行った。

結果概要

「落ち葉マウンド法」では概ね40~50cmの円状に菌糸が伸長し、土中の埋込においても地表面に良好な発菌がみられたにもかかわらず、どちらの試験区においても年内の子実体の発生はみられなかった。今回の結果によりムラサキシメジの野外栽培で同一年内に子実体の収穫を得ようとする場合、7月以前に伏せ込みを行う必要があることが考えられる。



写真-13 発菌状況 (10月22日、左：落ち葉マウンド法 右：埋込)